

(科目コード : 8008820106AA)

【改訂】第3版(2019-03-13)

【科目】企業論

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 前期・1単位

【対象学科・専攻】 生産システム,環境 1年

【担当教員】 木村 哲也,宮越 俊一,鈴木 実,平社 信人,高岡 登志仁,山岸 良一

【授業目標】

企業活動とはどういったことかについて、その基本的な考え方を学習し、今後のキャリア形成の一助とすることを授業の狙いとしている。

企業経営や研究開発における管理・運営の経験を有する学内外の講師から様々な観点に基づく

授業を受け、企業人としてのものの考え方や取組み姿勢、思考態度を知ることを通じ、将来の研究・開発技術者としての視点を育む。具体的には、以下を授業目標としている。

企業における社会的責任を理解できる。

企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解できる。

コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。

社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。

【教育方針・授業概要】

企業の社会的役割と企業活動の概要、ものづくりと製品化に向けた企業努力、人材の育成、エンジニアのあるべき姿、学生時代に何を学ぶべきか等について、企業経営・運営経験者からなる学内外の講師がそれぞれの観点から講義する。担当教員はそれぞれ製薬産業、宇宙航空産業に関わる企業での研究開発の経験を有し、その経験を活かして学生に学習の意義や企業等で専門を活かして働くことのイメージ、起業の可能性などについて伝えることも重視している。

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

パワーポイント(スライド)を用いた授業を基本とし、必要に応じてプリントを配布する。授業の一部では、講師から実際の課題を提示し、グループワークなどによりこれを解決、発表する形式も取り入れて進める。

【成績評価方法】

[前期]中間試験：0%、期末試験：0%、レポート：100%、それぞれ異なるテーマで複数の講師が講義を行い、各講師ごとにレポート課題を出す。提出されたレポートにより、担当講師が成績評価を行う。

【本校の学習・教育目標】

(A-3) 工学や技術の潜在的危険性を理解し、技術者の社会的責任を自覚するための倫理観を身に付ける

(B-2) 設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学科目の学習を通して、各分野の工学の基礎知識を広く修得する

(D) 技術的課題を分析し、解決するためのシステムをデザインする能力を身に付ける

【授業計画】（企業論）

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	ガイダンス 企業における研究部門	ガイダンス ・ 授業の概要 ・ 授業のねらい ・ 授業の進め方 ・ レポート 製薬会社における新薬研究開発の現場と仕事の取り組み、人材育成等について 講師：元・第一三共株式会社 群馬高専 一般教科（自然）教授 宮越 俊一		
第2回	企業経営概論	・ 企業の目的と企業経営 レポート1 ・ 企業の活動と仕組み（経営計画・経営組織） ・ 製造業の現状と経営革新 ・ エンジニアリングスペシャリストとしての心構え 講師：株式会社アイム 社長 木村 哲也 氏	レポート1	
第3回	(未定)	・ 企業におけるビジネスモデルについて ・ 企業における各種指標の重要性とその活用 講師：カンサン株式会社 社長 鈴木 実氏	レポート2	
第4回	企業における研究開発から製品 化まで	宇宙航空産業における研究開発の実際とそれに必要なこととは 講師：元・IHIエアロスペース 群馬高専 機工工学科 准教授 平社信人	レポート3	
第5回	(未定)	企業、特に開発や製造の現場において重要なこと （課題解決の実習を含む） 講師：株式会社 柴田合成 企画室長 高岡登志仁氏	レポート4	
第6回	経営指針と人材育成によって「 人を大切に作る経営」を実践する	・ 経営者の責任について ・ 対等な労使関係 ・ 経営理念の確立と浸透について ・ 人を大切に、人を活かす経営とは ・ 全員参画の企業経営について 講師：株式会社山岸製作所 代表取締役社長 山岸 良一 氏	レポート5	
第7回	企業における研究開発について	製薬会社における新薬研究開発の現場と仕事の取り組み、人材育成等について 研究開発に関する課題・演習（グループによる作業と発表） 講師：元・第一三共株式会社 群馬高専 一般教科（自然）教授 宮越 俊一		
第8回	まとめ	(担当 宮越俊一)		